

御大典記念 特別展 よみがえる 正倉院宝物 再現模造にみる天平の技

令和3年7月3日(土)から 8月29日(日)まで新潟県立近代美術館で
「御大典記念 特別展 よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる
天平の技—」を開催します。

開催趣旨

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられた約九千件におよぶ品々です。聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、天平文化華やかかなりし当時の東西交流もうかがい知ることができます。しかし、約1300年を経て今日にいたる正倉院宝物は、きわめて脆弱であるため、毎年秋に奈良で開催される「正倉院展」で一部が展覧される以外はほとんど公開されてきませんでした。

より多くの人に正倉院宝物の魅力を伝え、その卓越した技術を後世に伝承することを目的として、正倉院宝物の当初の姿を再現する模造製作が明治時代から始められました。昭和47年(1972)からは宝物を管理する宮内庁正倉院事務所によって、宝物の材料や技法、構造までを忠実に再現する本格的な模造事業が行われています。見た目だけでなく、内部まで忠実に再現された作品は、単なる模造ではなく、高い芸術性と学術性を併せ持つ究極の伝統工芸品であるといえます。

本展は、天皇陛下の御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造作品のなかから、選りすぐりの逸品を一堂に集めて公開するものです。再現された天平の美と技に触れていただくとともに、日本の伝統技術を継承することの意義も感じていただきます。

①再現模造の逸品を一堂に集めて公開するおよそ20年ぶりの展覧会

天皇陛下御即位をはじめとする皇室の御慶事を記念し、明治時代からおこなわれてきた正倉院宝物の再現模造事業で製作された数百点におよぶ作品の中から、調度品・楽器・染織品・仏具など多彩な分野から選りすぐりの約80件近くが出品されるかつてない規模の展覧会です。

②人間国宝ら伝統技術保持者の熟練の技に触れる展覧会

およそ1300年の時を経て、正倉院宝物の製作当初の鮮やかな姿が、現代の名工たちの技によってよみがえります。当県の人間国宝・玉川宣夫氏らによる再現模造もあります。また、正倉院宝物に見ることのできる特殊な技法や素材に焦点を当て、模造製作の際の映像や関連資料なども作品とともに紹介し、再現模造事業を通じて継承された日本の伝統技術もご覧いただきます。



模造 銀薫炉 正倉院事務所蔵
鍛金：玉川宣夫／彫金：市川正美

③技法と芸術性の完全再現を目指した究極の伝統工芸品

明治・大正・昭和・平成と続き今日にいたる再現模造事業では、継承された伝統の技に加え、CTスキャンなどの最新の技術が融合することにより、内部構造までも再現した逸品が次々と製作されています。本展では平成最後の年に8年がかりで完成した「模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」を筆頭に、近年製作された再現模造作品も紹介します。



模造 螺鈿紫檀五絃琵琶の螺鈿に線彫りを施している様子

模造 螺鈿紫檀五絃琵琶 表(左)／裏(右) 正倉院事務所蔵（前期8/1まで）

第1章 楽器・伎楽

正倉院宝物の中から様々な工芸技法によって美しく装飾された「螺細紫檀五絃琵琶」をはじめとする楽器類の模造をご紹介します。また、大仏開眼会の際に演じられた伎楽の面や衣装などの模造も展示します。

第2章 仏具・箱と几・儀式具

正倉院に伝来した、年中行事に関わる儀式具、東大寺ゆかりの仏具や箱・几の数々は、律令制と仏教による護国体制を背景につくられたものです。多様な素材・技法が駆使された品々は、たしかな技術と美意識に裏付けられた天平工芸の水準の高さを物語ります。



模造 黄銅合子 正倉院事務所蔵

第3章 染織

養蚕は今から約5～6000年前に中国で始まったと言われ、日本においても奈良時代になると全国的に行われていました。絹織物の基本ともいえる平織りの純、綾、羅、そして複雑な文様を表した錦など多彩な織り技法による模造品をご紹介します。

模造 紫地鳳唐草丸文錦(文様部分)
正倉院事務所蔵



第4章 鏡・調度・装身具

鏡をはじめ薫炉・厨子・双六局などの調度品や、帯・刀子などの装身具は、その技術の高さにおいて宝物を代表するものと言えます。こうした宝物を、材質・形状・文様・技法等あらゆる面で忠実に再現することは、天平の工芸品の息吹をいまに伝えるだけでなく、後世の日本の工芸を発展させる原動力ともなりました。



模造 螺鈿玉帯箱 東京国立博物館蔵

第5章 刀・武具

正倉院は古代の武器・武具の宝庫でもあります。55口残る大刀のなかには、装飾を凝らした儀仗用の大刀がある一方、実用本位の大刀も少なくありません。多数伝わる矢は、矢羽根の多くが失われていますが、模造により当初の姿が再現されました。

第6章 筆墨

正倉院文書は東大寺写経所が伝えた帳簿群が中心ですが、よそで不要になった紙の裏を使うケースが多かったことから、多種多様な文書が残りました。展示では多色コロタイプ印刷による精緻な模造によって、正倉院文書の全体像に迫ります。



模造 続修正倉院文書第3巻 国立歴史民族博物館製作

関連催事

1.宮内庁正倉院事務所長による講演会

7月3日(土) 講師：西川明彦氏（宮内庁正倉院事務所長）

2.再現模造製作者による鼎談

7月17日(土) 鼎談者 玉川宣夫氏

（「銀薫炉」再現製作者／重要無形文化財「鍛金」保持者）

市川正美氏（「銀薫炉」再現製作者／彫金作家）

藤田裕彦（当館学芸課長）

※いずれも午後2時から 定員35名（要事前申込み） 無料

申込み方法：電話またはメールでイベント前日16:00まで（ただし、定員に達し次第締め切ります。）

電話：0258-28-4111（受付時間：9:00～16:00 土日も受付ます。）

メール：メールアドレス：ngt503040@pref.niigata.lg.jp

件名に「正倉院展講演会7月〇日」（丸印部に開催日）と明記、メール本文に氏名・電話番号を記入してください。近代美術館からの返信メールをもって受付完了のお知らせとなります。

基本情報

会期および開館時間

令和3年7月3日(土)～8月29日(日)

月曜日休館（ただし、8月9日(月)、16日(月)は開館。8月10日(火)休館）

午前9時～午後5時（観覧券の販売は、閉館30分前まで）

会場 新潟県立近代美術館 企画展示室

主催 宮内庁正倉院事務所、新潟県立近代美術館、NST新潟総合テレビ、よみがえる正倉院
宝物新潟展実行委員会、朝日新聞社

学術協力 奈良国立博物館、九州国立博物館 ／ 特別協賛 株式会社福宝

協賛 ライブアートブックス、セコム上信越株式会社 ／ 協力 新潟県立美術館友の会

後援 日本工芸会、長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、エフエムラジオ新潟、長岡新聞社

観覧料 当日一般：1,500円（1,300円）／大学・高校生1,300円（1,100円）

前売一般：1,300円

※（ ）内は有料20名以上の団体料金 ※中学生以下、無料

※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は、観覧料が免除になります（手帳をご提示ください）。

前売券販売 7/2(金)まで、新潟県立近代美術館受付（開館日のみ）、全国JTBレジャー

チケット(商品番号:0256503)、県内プレイガイドで販売。

問い合わせ先

新潟県立近代美術館 担当：(展覧会全般)松矢国憲 伊澤朋美 長嶋圭哉 (広報)飯田美輝夫

〒940-2083長岡市千秋3丁目278番地14／電話番号：0258(28)4112／FAX番号：0258(28)4115／

e-mail：kinbi@coral.ocn.ne.jp

広報画像、視聴者・読者用チケットプレゼント申込み

別紙、広報画像使用申請書にてお申し込みください。

（宮内庁正倉院事務所等の確認のため、時間のかかる場合があります。）